

# OTOGAWA

愛知県岡崎市の乙川リバーフロント地区では、2015年から主要回遊動線「QURUWA(くるわ)」を中心に、  
豊富な公共空間を活用した複数の社会実験を通して、公民連携プロジェクトを立ち上げ、  
「QURUWA戦略」としてエリアの再生に取り組んでいます。

QURUWA

自分たちの  
まちが  
で終わるまで

# GRAND DESIGN

乙川リバーフロント地区の  
公民連携まちづくり  
5年目の取り組みを収録。

CONTENTS

## 02 PROJECT SUMMARY

2019年度QURUWAまちづくり

## 03 TALK EVENT QURUWAラウンドテーブル

## 04 QURUWA PROJECT

1.太陽の城跡地の事業者決定 2.桜城橋の完成とP-PF事業者決定

3.東岡崎駅周辺および北東街区有効活用事業

4.おとがワーンダーランド岡崎泰平の祈り 5.龍田公園リニューアル

7.道路再構築事業 康生通り・連尺通り

## 15 13 PROJECT REPORT QURUWA LIFE HACK (クリエイティブ人材育成支援事業) INC

## SYMPOSIUM QURUWA新章突入

## RELATED PROJECT

QURUWA講演会&意見交換会  
「まちなかの図書館」QURUWA菜園

CONFERENCE 2019年度デザイン会議

進む  
QURUWA  
プロジェクト  
Vol.7

# プロジェクトサマリー 2019年度 QURUWAの まちづくり

「おとがわプロジェクト」の3年間の成果として策定された「QURUWA戦略」を受け、2015年からはじまる乙川リバーフロント地区のまちづくり5年目となる2019年度は、公民連携プロジェクトがさらに歩を進める年となりました。

## 2019年度 プロジェクトの動き



本紙では、QURUWA戦略に定められた7つのQURUWAプロジェクトのうち、2019年度の主な動きをお届けします。

今年度の主なトピックとしては、東岡崎駅周辺および北東街区有効活用事業【→P.06】、2019年7月の籠田公園リニューアル【→P.08】

【→P.10】、2020年3月の桜城橋完成【→P.05】など、QURUWAプロジェクトにおける重要な拠点のオープン/リニューアルオープンがありました。

継続的な取り組みとしての「おとがわ!ンダーランド」や「岡崎泰平の祈り」【→P.07】、道路再構築事業【→P.11-12】、QURUWAシンポジウム【→P.15-17】もあれば、今年新たに実施したトークイベント「QURUWAピクニッ

クトーク」【→P.03】、官民連携を進めるイベント「QURUWA LIFE HACK」【→P.13】、クリエイティブ人材育成支援事業「INC」【→P.14】、また講演会「そとつながる図書館」や「QURUWA菜園」【→P.18】の取り組みにもご注目ください。

重要拠点の完成のみならず、桜城橋の橋上広場と橋詰広場の整備運営事業【→P.05】や、太陽の城跡地活用「岡崎市QURUWAプロジェクト(コンベンション施設整備事業等)」の事業者が選定【→P.04】された今年は、今後の拠点形成をうらなう重要な選択の1年でもありました。

## トークイベント QURUWA ピクニックトーク

### QURUWAピクニックトーク#1

日時:9/28[土]17:00-18:30  
@乙川ナイトマーケット  
場所:乙川河川敷  
運営:NPO法人岡崎まち育てセンター・りた

### QURUWAピクニックトーク#2

日時:10/14[月・祝]17:00-18:30  
場所:籠田公園  
運営:NPO法人岡崎まち育てセンター・りた

市民自らまちを能動的に使いこなすこと」「まちを歩く楽しさを見出すこと」を喚起したい、ということがこの企画の前提です。その目的は、「まちへの感度を高め、まちを楽しむ人を増やすこと。

QURUWAの回遊を実現するためには、まだコンテンツの数も密度も十分ではありません。仮にQURUWAプロジェクトが実現しても、拠点事業者や一部の民間事業者が提供するコンテンツを受動的に受益・消費するだけでは、事業者頼みでその質に左右され、相乗効果や波及効果が生まれにくく、エリアの価値の向上につ

ながりません。拠点が形成されてもピンポイントで移動する行動様式が変わらなければ回遊性は高まらないでしょう。

そこで、コンテンツを増やし、密度を上げる動きと並行して、事業者市民以外の「ツー市民」の関わることができる部分を生み出すことを兼ねて、「市民自らまちを能動的に使いこなすこと」「まちを歩く楽しさを見出すこと」を喚起したい、ということがこの企画の前提です。その目的は、「まちへの感度を高め、まちを楽しむ人を増やすこと。

シンポジウム 자체が公共空間活用のお手本となり、目的としてシンポジウムに来る人以外の「まちをすでに楽しみ始めている層」を巻き込みます。ピクニック形式で、ドリンク片手に気軽に参加でき、周辺にいる人も緩やかに出入りできる雰囲気をつくりました。会場となったのは、乙川河川敷と籠田公園。30から50名程度の小規模な「ポップアップシンポジウム」です。

1回目は、乙川河川敷で開催。同日、隣では、乙川ナイトマーケットが賑わいを見せていました。Aグループ: お客様を連れていくと喜ばれる「場所」、Bグループ: 子どもと(が)一緒に行きたい場所、Cグループ: 伝えたいお気にいりの風景や物語、という3つのテーブルでディス

カッション。「QURUWAエリアから少し離れたエリアに住んでいる。QURUWAエリアで食事やお酒を愉しんで帰りたいが、交通手段がないのが残念。」「籠田公園、伊賀川、りぶらなど、結構子育て環境が充実していることに気づいた。」という声が聞かれました。

続く2回目は、籠田公園で開催。「A.すでに動き始めている人」から「B.潜在的な使い手」に、その思いやノウハウを伝えてもらい、能動的にまちを使いこなすきっかけをつくることを目的に、「QURUWAで見つけたまちの楽しみ方、気になるところ」「もっと楽しむためにあるとよいもの・必要なもの」というテーマでABCDの4グループに別れてディスカッション。「QURUWAのMAPをつくってまち歩きの企画を開催したこともあります。思いっきり社会実験を楽しんで発信していきたいです。」など、すでに活動を始めていた人たち側の視点からの発言が見られました。

最後にQURUWA戦略の総合プロデュースを務める清水義次氏から、まず雨天時にも関わらずこうした話し合いの場が生まれたことへの称賛の声があがりました。その後、「QURUWAの中だけでなく、外ともつながっていくことで岡崎らしい魅力が高まっていくのではないか。」という、今後の展開に期待がなされ、2日間にわたるピクニックトークに幕が下ろされました。



# QURUWAプロジェクト-1 太陽の城跡地の事業者決定

「まち・ひと・かわを結ぶ交流拠点」を実現するために民間資金・経営能力・技術的能力の活用を図る公民連携事業として公募をすすめていた「岡崎市QURUWAプロジェクト(コンベンション施設整備事業等)」について、優先交渉権者を選定しました。

## 優先交渉権者

酒部建設グループ

- ・酒部建設株式会社
- ・三菱地所株式会社
- ・株式会社スノーピーク
- ・ビジネスソリューションズ
- ・ホームックス株式会社 岡崎支店

岡崎市QURUWAプロジェクト(コンベンション施設整備事業等)は、2019年9月に事業者の公募がはじまり、参加資格審査、競争的対話を経て、翌2020年には提案書の審査ヒアリングがおこなわれ、同年2月に事業者が決まりました。

コンベンション事業は、既存施設(旧教育文化

館等)を解体撤去後、ホール・会議室等の公共施設(「コンベンション施設」)を設計・建設・維持管理及び運営する、というもの。

- ア「観光産業都市の創造に資する施設」
- イ「持続可能な社会の創造に資する施設」
- ウ「生きがいづくりや健康づくりの支援に資する施設」
- エ「市民の誇りとなる施設」
- オ「誰もが平等に使える施設」

という5つの指針に沿って提案が求められました。

このコンベンション事業は「ホテル等民間収益施設事業」(「ホテル事業」と「乙川河川緑地管理運営事業」(「乙川河川緑地事業」とあわせて実施することで、基本計画に示す次の3つの基本目標を達成することを目標として、市有地である太陽の城跡地(岡崎市明大寺本町一丁目地内)を有効利用し、民間の資金や、経営能力・技術的能力等のノウハウを活かした公民連携手法を活用しておこなわれます。

- ①「コンベンション機能を活かした観光産業都市の創造」
- ②「仕事・暮らし・健幸を応援する生きがい交流空間の創造」
- ③「乙川エリアの価値を高める魅力的な都市空間の創造」



ホテル内装イメージ | 画像は提案時のイメージです

酒部建設グループの評価ポイントとして、コンベンションホールやホワイエを2階に配置することで乙川への眺望に配慮した点や、本市初となる宿坊型ホテル誘致のほか、建物と河川空間の間に位置する堤防道路を歩行者化することで河川空間との一体化を図る斬新なアイデアなど、QURUWAエリアへの波及効果を意識した優れた内容であったことから、公民連携で進めるまちづくりのパートナーとして、最もふさわしい提案であると評価されました。

\*その後、2023年度中のオープンを目指して、市と事業者が新型コロナウイルスに対応した施設設計等協議を重ねていたところですが、市の政策変更により、コンベンション施設とホテルについて計画見直しに向けた調整をおこなっています。



外観イメージ | 画像は提案時のイメージです

# QURUWAプロジェクト-2 桜城橋の完成とP-PFI事業者決定

## 桜城橋の完成

2013年度に都市計画の専門家、建築家、地元市民代表などの方々から提案された、(仮称)乙川人道橋。一級河川乙川に架かる公園橋であり乙川河川緑地の公園・人道橋として「桜城橋」が2020年3月22日に完成しました。単に人が通過するだけの橋ではなく、広場・イベント空間などとしても利活用できる橋として整備されました。

この新しく生まれた橋の名前「桜城橋」は、2018年8月から10月まで公募で集まった4,000件を超える中から、市内の中学生に選考協力をしてもらい5案ずつに絞られ、同年12月から2019年2月までおこなわれた投票にて決定したものです。「桜の名所である岡崎城を『桜の城』と例え、新しい橋から見える」ということで名付けられました。なお、同じく公募されたこの「桜城橋」から籠田公園までの「通りの愛称」は、「天下の道」が選ばれています。「桜城橋」は幅19メートル(有効16メートル)、長さ121.5メートルで、広さが約2,000平方メートル。床板や手すりは岡崎市の額田地区産ヒノキで装飾され、木のぬくもりを感じられる橋です。開通した3月22日は新型コロナウィルスの影響が見られたものの、多くの方々が「渡り初め」をおこないました。

## Park-PFIによる中央緑道等 (桜城橋上広場と橋詰広場) 整備運営事業

そんな桜城橋橋上広場と橋詰広場に、民設民営による公募対象公園施設(カフェやレストランなど)と特定公園施設(トイレや休憩施設などを設置する事業者の募集選定について、2020年2月25日に実施した岡崎市QURUWAプロジェクト(中央緑道等(桜城橋橋上広場と橋詰広場)整備運営事業)公募設置等予定者選定委員会の審査結果を受け、公募設置等予定者を選定しました。



橋詰広場の活用イメージ | 画像は提案時のイメージです



橋詰広場と橋上の活用イメージ | 画像は提案時のイメージです

## 公募設置等予定者

三菱地所/三河家守舎/サンモク工業/  
オープン・エー共同企業体

- ・三菱地所株式会社
- ・株式会社三河家守舎
- ・サンモク工業株式会社
- ・株式会社オープン・エー

なお、Park-PFIとは、2017年の都市公園法改正により創設された、飲食店、売店等の公園利用者の利便の向上に資する公募対象公園施設の設置と、当該施設から生じる収益を活用してその周辺の園路、広場等の一般的な公園利用者が利用できる特定公園施設の整備・改修等を一体的におこなう者を、公募により選定する「公募設置管理制度」のこと。

このプロジェクトは、都市公園法第5条の2の規定に基づく公募設置管理制度を活用し、桜城橋橋上広場(乙川河川緑地の一部)と橋詰広場(中央緑道の一部)という二つの異なる都市公園の整備運営をひとつの募集でおこなうというものです。二つの異なる都市公園をひとつの中でも整備運営することにより、その一的な効果を発揮することが期待され、かつ、

認定計画提出者が指定管理者としても管理運営していくというスキームをとっており、公募設置管理制度の中でもあまり例のない事業となっています。

今回、複雑な事業スキームかつ敷地条件の制約が多いなかで、橋上での建築や「中央緑道」との一体性等、難解な事業計画提案だったと言えます。選ばれた三菱地所/三河家守舎/サンモク工業/オープン・エー共同企業体の提案は、QURUWA戦略をふまえ、事業地の魅力向上が乙川リバーフロント地区の活性化や回遊性に波及する事業である点、2019年7月にオープンした籠田公園、2021年2月現在工事中の中央緑道との連続性を意識した配置計画に配慮した点などQURUWA全体への波及効果を意識した提案として優れたものであったことから、公民連携で進めるまちづくりのパートナーとして、最もふさわしい提案であると評価されました。

2022年4月のオープンを目指して、プロジェクトが進んでいきます。

\*新型コロナウイルス感染症拡大の影響によりオープン時期は調整中

## QURUWAプロジェクト-3 東岡崎駅周辺 および北東街区 有効活用事業

東岡崎駅周辺では、景観等に配慮しつつ、橋上駅舎、自由通路の設置、駅前広場の整備などを総合的に実施し、本市の玄関口にふさわしい、安全でだれもが使いやすい、にぎわいの交流拠点づくりをめざしています。

岡崎市の都市核に位置し、都市機能の一端を担うべき名鉄東岡崎駅の北口駅前広場は、1日の乗降客約39,000人（年間約1,400万人）が利用する駅でありながら、非常に狭く、タクシー、一般車、バス等の交通が輻輳し混雑しています。このような状況を踏まえ、交通結節点整備として駅東側拡張用地の「東岡崎駅前広場」に一般車乗降場を、駅北東側

拡張用地の「明大寺交通広場」にタクシー待機場や企業・観光バス乗降場などを整備して機能を分散させるとともに、東改札口から乙川河川緑地へつながるペデストリアンデッキを整備することにより駅前の混雑解消を図りました。

なお、駅舎や南北自由通路、駅ビル、バスターミナルを有する「東岡崎交通広場」は2期計画として、令和2年以降の着手を予定しています。



家康公ひろば

た地元岡崎や名古屋圏発祥のレストランやカフェ、フィットネススタジオやコワーキングスペース、保育所などの日常使いに便利なサービス、観光にも出張にも便利な都市型ホテルや、約1,600台を収容する駐輪場など、暮らしを豊かにしてくれる複合施設の整備が実現しました。

また、グランドオープンに合わせてペデストリアンデッキ上の家康公ひろばでは、岡崎の新しいシンボルとなる全高約9.5m（像は約5.3m、台座は約4.2m。製作者は神戸峰男氏）の若き日の徳川家康公の騎馬像がお披露目されました。



オトリバーサイドテラス



東岡崎駅前広場



明大寺交通広場



東岡崎駅ペデストリアンデッキ

## QURUWAプロジェクト-4 おとがワ! ンダーランド

今期よりおとがワ!活用実行委員会の自立を目指し、週末の日常的なプログラムと合わせて自主企画イベントを期間中に4件実施しました。「使う場」としての乙川から、乙川そのものの価値を体験できる機会や、かわまちづくりへの新規参入を増やすなど、一定の成果を生み出すことができました。

### おとがワ!活用実行委員会の 自主事業

#### おとがワ!ンダーランド OPENING EVENT「川びらき」

日時:2019年4月29日[月・祝] 8:30~21:00  
来場者:約1,500人  
実施プログラム数:10(ひとつは曇天のため中止)



川びらき | HANDMADE SELECT MARKET



川あそび | 観光船:SUP.アクアボール体験

#### おとがワ!ンダーランド SUMMER EVENT「川あそび」

日時:2019年8月12日[月・祝] 16:00~21:00  
来場者:約500人  
実施プログラム数:10



川あそび | 夏の夜を泳ぐ金魚花火



川ぐらし | 学びの教室

#### おとがワ!ンダーランド AUTUMN EVENT「川ぐらし」

日時:2019年11月9日[土] 12:00~20:00  
来場者:約500人  
実施プログラム数:16



Let it Camp



ANNUAL REPORT  
OTONOTO



マンスリーチラシ

日時:1stシーズン | 7月13日~11月9日(うち13日間)  
2ndシーズン | 12月7日~1月25日(うち6日間)  
来場者:584人

#### おとがワ!ンダーランド Let it Camp

日時:1stシーズン | 7月13日~11月9日(うち13日間)  
2ndシーズン | 12月7日~1月25日(うち6日間)  
来場者:584人

公民連携した乙川リバーフロント地区のかわまちづくりの取り組みを伝えることを目的として、青く光るLEDの球「いのり星®」約30,000個を乙川の川面に浮かべ、幻想的な水辺空間を演出する、「岡崎泰平の祈り」。2015年からスタートし、5年目となる今年は約40,000人もの来場者を数えました。

## QURUWAプロジェクト-4 岡崎泰平の祈り

日時:2019年11月23日[土] 17:00~19:00  
会場:乙川、殿橋から潛水橋周辺  
主催:岡崎 泰平の祈り実行委員会  
来場者:約40,000人  
\*2018年約35,000人  
\*2017年約28,000人  
\*2016年約11,000人(午前中雨天)  
\*2015年約20,000人  
放流総数:約30,000個

同時に、一般社団法人岡崎青年会議所による「三角灯籠・竹灯籠」、Heart to Heartによる「わくわくキッズワールド」「乙川マイムマイムフェス」、乙川ナイトマーケット実行委員会によ

る「乙川ナイトマーケット」、その他「イエヤスコウイルミネーション2019」「岡崎グルメフェス」「龍城神社、菅生神社にて限定御朱印や限定絵馬、お守りなど頒布」を実施されました。



## QURUWAプロジェクト-5

# 籠田公園 リニューアル

籠田公園(KAGODA PARK)は1958(昭和33)年に整備され、地域の人の憩いの場としてだけではなく、イベントも多く開催され、多くの人々に親しまれてきた公園です。籠田公園は本市が進めているQURUWA戦略の一つのプロジェクトとして2018年度から工事を開始し、「つどい・つながり・つづく」をコンセプトに暮らしの質の向上やエリアの価値を高めるための場所として再整備され、2019年7月にリニューアルオープンしました。

2016年7月に設計者として有限会社オンサイト計画設計事務所が選ばされました。

選定後、設計者含むデザインチームと市民のみなさんがワークショップ形式で話し合う会「QURUWA FUTURE VISION」が同年10月から12月にかけて4回実施されました。

2018年度には地域住民の方々と、どんな使

い方ができるかのワークショップが3回開かれ、引き続き、2019年度には都市公園法の協議会設立に向けた準備会が3回開催されました。

### 新しい籠田公園のコンセプトは「つどい・つながり・つづく」場所

1:昔も今もいろんな立場の人々が「つどう」場所遊具や噴水、勉強や会議など様々な目的で市民が訪れ、イベントだけに頼らずに日常的に市民に使われる場所として、また一人でも大勢でも気持ちよく居られる場所として人々が集うよう計画された籠田公園は地元や市内だけでなく、市外から訪れる人を迎える場所となります。

### 2:様々な世代の人と一緒にいることでの「つながり」が生まれる場所

子育て中のお母さん、小中高校生、サラリーマン、近所のお爺ちゃんお婆ちゃん、そして訪れる観客らがちょうど良い距離感で一緒に過ごせる場所をつくりました。ここで過ごす人たちの姿が、訪れる人にとっての「岡崎の顔」となります。

### 3:未来へまちが「つづく」きっかけになる場所

地域の人や岡崎市民、市外からの観光客など様々な人がこの場所に集い、「人とモノ」ではなく「人と人」が繋がって楽しみ、喜び、知り、考え、地域の問題も解決することで、歴史があるこのまちがこれからも未来へつなぐきっかけが生まれるよう計画されました。

### 籠田公園での設計上の工夫

#### A:旧東海道に面した「まちの縁側」空間

多くの屋根と木立に囲まれ、雨の日でも晴れの日でも気持ちよく過ごせるこの場所は、まちの延長として様々な市民活動を受け入れる「まちの縁側」となります。

連尺通や二七市通りと連携することで旧東海道沿いの軒先き空間として賑わいを連続させます。

#### B:「芝生の広場」=「市民活動」=「公園のシンボル」

今までに市民の手で大切に管理されてきた芝生広場は、リニューアルしても引き続き籠田公園のシンボルとなり、ここで楽しみ集う市民の姿こそが新しい「まちの顔」となります。

北側に配置される芝生のマウンド(築山)は乙川対岸の丘陵地まで見渡すことができ、

もちろん寝転んだりすべて遊ぶこともあります。

#### C:芝生広場と対で活ける「緑陰の広場」

元々ある木立を残しながら、四季を感じられる植物を新たに追加して落ち着きのある緑陰空間をつくりました。

高木の下には低木植栽を植えることで木々や生き物にとって良好な環境をつくり、都市で暮らす人々にとって小さな自然の気づきがある場所を目指します。(木々、野鳥と市民が共存できる場所)

#### D:中央緑道から公園へのエントランス広場

戦後復興のシンボル(戦災復興の碑)を継承しています。

イベント時の車の乗り入れや、祭りの際の桟敷席など多様な使いができるように舗装された広場としています。



キッチンカー出店のようす

リニューアル以降は清掃活動、図書館リサイクルバザー、ジャズライブがおこなわれるのみならず、日常的にキッチンカーなどが登場し、籠田公園における新たな日常風景をつくりています。

籠田公園のリニューアルをきっかけに、籠田公

園周辺の学区の枠を飛び越えた、7つの町内会を中心として、さらに広い町内会がまとった7町・広域連合会が地域主体で発足しました。これをきっかけに、地域の課題を自ら解決するため、籠田公園で約30年ぶりに盆踊りを開催したり、籠田公園周辺への新規出店支援やまちの見守り活動など、暮らしの質の向上を図るアクションをおこしています。



ゴムチップでできたマウンドで遊ぶようす



芝生マウンドで転がって遊ぶようす

## 籠田公園リニューアル後に生まれた民間の動き

### 令和元年度 篠田公園オープニング式典

日時:2019年7月28日[日] | 主催:篠田公園周辺七町連合会



### 自治会主催の夏祭り(盆踊り)

日時:2019年8月10日[土]  
主催:篠田公園夏祭り実行委員会



### 籠fes, We LOVE 篠田

日時:2020年2月11日[火]  
主催:梅園小学校6年3組  
内容:地元小学生主催の自主イベント



### MUSIC FESTA at New Kogoda Park

日時:2019年8月4日[日]  
主催:未来城下町連合会  
内容:地元団体主催の音楽イベント



### 「Park Trade Association Bazaar」vol.1

日時:2019年11月10日[日]  
主催:パークトレードアソシエーション  
内容:アパレル、飲食、グラフィックデザイン、アクセサリーなどを扱うマーケット



### 各種キッチンカー出店



## QURUWAプロジェクト-7 道路再構築事業 (康生通り)

体験コーナーなどが設置されました。

### 実験内容

#### 「より日常化を想定した 道路空間活用の検証」

##### 車道……車道規制

- ①: 約1.5ヶ月間、康生通りの車線を一部規制。自動車の交通に危険がなくスムーズにおこなわれるのかを検証しました。
- ②: 車線を規制した場合の、沿道店舗への影響や反応を探りました。

##### 歩道・空地……空間活用

「街中への集客→街中への滞留→沿道店舗への波及」という流れを通りの中で一体的につくりだすことを目的に、「道のリビング」の想定の元、以下の3つの機能で通りを構成し、それぞれ空間活用をおこないました。

- ①:[空地]キッチンカー村(まち中の集客拠点)  
キッチンカー、テント出店 \*交番横空地
- ②:[歩道]パークレット(滞留スペース)  
休憩&情報スペース、  
Wi-fiや遊び等備品の設置 \*車道側歩道
- ③:[歩道]軒先活用(にじみ出しによる波及)  
体験ブース、外での売り出し、接客席、  
青空カフェ等 \*店舗側歩道



車道の一部をパークレット化



空地を活用しキッチンカーを誘致



軒先で青果を販売するようす



通りで景観を統一して一体感を演出

がありました。

### キッチンカー村について

[出店者]空地活用の2年目は、テント付き休憩スペースを常設形に変更。出店カレンダーをつくりWEBからの申込みをシステム化するなど、運営労力を最低限に抑えたかたちで実施しました。出店者からは、街の店舗や一般利用者との出会いやふれあいに満足する声が多く、今後も引き続き出店を希望する傾向が多く見られました。

### 検証結果

#### 車道について

「交通車両」車線は規制しても、交通量自体に大きな変化がないことが判明しましたが、バス停の位置や信号の連動等についての検討が必要であることがわかりました。

「沿道店舗」車線規制や2車線化は、お客様の来店阻害など悪影響が出るのではないかと不安が見られました。

#### パークレットについて

「沿道店舗」パークレットのような大型設置物は、お店が見えなくなる、荷さばきがしづらなくなる、お店への来店を阻害するなど、否定的な意見が多くありました。

「一般利用者」来街するという点で、休憩スペースや情報が分かる場所があると非常に良いと好評でした。

#### 軒先について

「沿道店舗」1.5ヶ月という長期間で約3割の店舗が軒先約1mの道路空間を活用しました。イベントではなく日常的に利用するという視点で、軒先1mの歩道空間を有料で活用したいという意見は1件、金額によるという意見は5件と、条件次第で活用を望む声

# QURUWAプロジェクト-7 道路再構築事業 (連尺通り)

時期:2019年9月-10月  
場所:連尺通り  
主催:株式会社三河家守舎

2018年度に実施した連尺通3丁目での社会実験の成果と課題を踏まえて、2019年度は、連尺通1丁目および2丁目を新たな範囲として拡張した形で実施しました。沿道住民(民間事業者/居住者)の意識啓発と機運醸成を図るために、道路再構築の効果や影響をイメージし、歩道空間や軒下スペースの利活用のアイデアやストリートデザインの将来イメージを議論しました。

また、具体的な社会実験を一定期間おこない、沿道住民や沿道事業者にとって道路空間が「自ら活用するもの」、「他者に貸し出すもの」、「オープンスペースとして開放するもの」のパターン化をおこない、通り全体のストリートマネジメントの最適解を導き出しつつ、民間活動が持続する仕組みを検討しました。そして、活動内容や実施状況、実験結果、将来の展望などを地域住民や来街者に情報展開していきました。

## 検証項目

- 歩道空間の貸し出しパターンの検討
- 歩道利活用内容のバリエーションの検証
- 沿道住民の意識変化、行動変化の検証
- 隣接した建物、駐車場との一体活用や有効活用の検証
- 道路空間の管理体制、組織体制の検証
- 事業スキームの検証
- ストリートデザインの素案(イメージ、パターン)
- 情報発信にまつわる課題検討や検証

**実験から日常化への変化とストリートデザインへの関心増強**  
沿道の人それぞれと道路活用の相談をしながら、それぞれの生活スタイルに合わせた活用と管理を伴う仕器を提供。沿道の人への管理依頼を通じて、断続的や単発的であった道路



歩道と駐車場を一体化的に活用



軒先で衣料品を販売するようす

活用が習慣化され、さらに当事者意識を持つもらうことに繋がりました。看板と机椅子、おもちゃ類の出し入れをしてくれるようになった方がいたり、夜間照明の管理、動く街路樹の管理補助をする人などがその例として挙げられます。

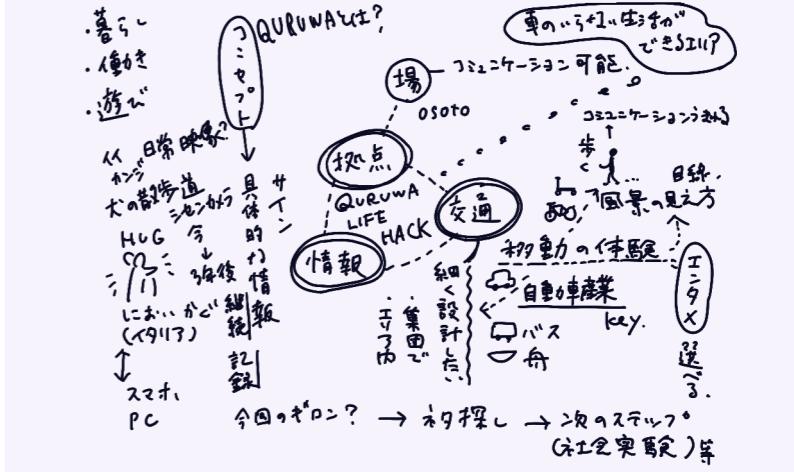
こうした社会実験の実施と連動させた情報発信の観点から、ウェブサイト「連と尺」を新たに制作。連尺通りにある店舗の商品を紹介することにより、外の人が関わりやすいきっかけが生まれ、沿道の人へも活用をうながすきっかけになりました。

# プロジェクトレポート QURUWA LIFE HACK

日時:2019年11月13日[水] 16:30-18:30  
場所:Camping Office Osoto OKAZAKI

## 主な登壇者

清水義次 | Yoshitsugu Shimizu  
アフタースーンソサエティ  
西村浩 | Hiroshi Nishimura  
ワークヴィジョンズ  
原田祐馬 | Yuma Harada  
UMA/design farm  
榎原充大 | Mitsuhiro Sakakibara  
建築家/リサーチャー/株式会社都市機能計画室  
長谷川伸介 | Shinsuke Hasegawa  
株式会社まちづくり岡崎  
山田高広 | Takahiro Yamada  
株式会社三河家守舎  
鈴木昌幸 | Masayuki Suzuki  
岡崎市企画課  
瀧浪勝俊 | Katsutoshi Takinami  
岡崎市都市施設課



3つのテーマのうち拠点事業については岡崎市担当者から今後3年の拠点形成について、そしてスマートシティ構想について話題提供がなされました。その後「交通計画」についてワークヴィジョンズ西村氏より話題提供。「歩いて楽しく、車でも動きやすい。いろんな移動手段があつてもいいのではないか」というテーマが語られました。そして最後に「情報発信」について、都市機能計画室榎原氏より話題提供がありました。「QURUWAについての「説明」はあるものの、QURUWAと私がどう関わりうるのかを伝えていく必要があるのでは」という問題提起がなされました。

後半のクロストークでは、QURUWAロゴの作成や籠田公園等のサイン計画にも携わるUMA/design farm原田氏、そしてQURUWA

QURUWA戦略において現在進めている拠点プロジェクトの進捗を踏まえ、QURUWAの回遊を実現するために、関連の深い3つのテーマ「拠点事業」「交通計画」「情報発信」について、各分野の専門家を交え官民双方が、実現性・事業性を考慮しながら一体的に議論するための機会がQURUWA LIFE HACKです。

スケッチドキュメンテーションと呼ばれる手法を利用し、大角真子氏によってリアルタイムで議論の内容が整理されながら、具体的なアクションプラン案(術)構築が検討されました。QURUWAに現在関わっている民間事業者や、これからQURUWAに関わりたい民間事業者をオブザーバーに、オンラインアンケートサービスを活用しながら、随時質疑を受け付けながら議論が進んでいきました。



当日のようす

## 重要なキーワード・話題 [抜粋]

- ・移動はエンターテインメント。移動の多様性は都市の豊かさを示す指標。
- ・移動手段を歩行にシフトすることで、コミュニケーションが生まれ、風景の見え方が変わり、濃厚な体験が可能となる。
- ・新たな移動手段をどう習慣づけさせるかが課題。
- ・車の利用を否定するのではなく、エリアによって移動手段を分けることが大事。
- ・誰のための情報発信なのかを意識するべき。
- ・暮らしが多拠点化する中で、そこにしかないものがある場所が選ばれていく。
- ・公共と民間の空間が境目なく見えるまちは居心地が良い。
- ・オープンカフェは民間型のパブリックスペース(公共空間)。
- ・官民連携だけでなく、官官連携もすすめるべき。
- ・各店舗が、個別におこなっている施設の維持管理をエリア全体で管理することで、費用のコストダウンに繋がり、浮いた費用でエリアマネジメントの運営費を捻出することも可能。
- ・健康的に働くためには、快適なオフィス空間が必要。
- ・まちでチャレンジする民間事業者を行政は規制緩和等により応援する関係が必要。
- ・岡崎市に投資をしてほしい事業者に向けたピンポイントな戦略的情報発信が求められる。
- ・QURUWAと地場企業を繋いでいくことが求められる。

当日の議論をまとめたグラフィックレコーディング

# プロジェクトレポート クリエイティブ 人材育成 支援業務「INC」

時期:2019年11月~2020年3月

フェーズ1 | INPUT/インプット:  
2019年11月23日、12月8日、12月15日、  
2020年1月18日

フェーズ2 | OUTPUT/アウトプット:  
2020年1月25日、2月15日、3月8日

フェーズ3 | PRESENTATION/プレゼンテーション:  
2020年3月20日

\*フェーズ3は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、中止

## プロジェクトメンバー

**原田祐馬** | Yuma Harada

UMA/design farm

**榎原充大** | Mitsuhiro Sakakibara

建築家/リサーチャー/株式会社都市機能計画室

**山田高広** | Takahiro Yamada

株式会社三河家守舎/森、道、市場

**武部敬俊** | Takatoshi Takebe

LIVERARY

**山田卓哉** | Takuya Yamada

大ナゴヤ大学

主催:株式会社都市機能計画室

クリエイターが「これからの〇〇」を考えるプロジェクト「INC」。今回の「〇〇」は、愛知県岡崎市にあるローカル・コンビニ「TAC-MATE」です。多彩なゲストを迎える「インプット」と、「TAC-MATE」を新たなメディアとしてとらえる「アウトプット」の2つのフェーズからなります。プロジェクトのためのアイデアだけでも、それを実現するスキルだけでなく、プロジェクトの筋道をつくる「クリエイティブ・ディレクション」の鍛錬を重視するところが特徴です。

東海地域から参加者を募集し、岡崎在住者・岡崎外東海圏在住者、クリエイティブな仕事に携わる方、企業に所属しながらクリエイションをおこなっている方など、多種多様な参加希望があり、計14名を参加クリエイターとして迎えることとなりました。

## インプット

2019年11月23日[土]

**園田崇匡氏**

[大衆食堂スタンド そのだ/台風飯店etc]

園田氏が手掛けられた飲食店にまつわるアイデアから運営までひとつひとつ語られていきました。ワークでは、アイデアの生み出し方につ

いてのレクチャーとワークがおこなわれました。

2019年12月8日[日]

**原田祐馬氏**

[UMA/design farm]

「INC」プロジェクト創設メンバーでもある原田氏にとってのデザインについてのレクチャーと、主要なプロジェクトにおけるディレクションの考え方方が丁寧に語られました。ワークでは、先入観から自由になるためのレッスンに実際に手を動かしながら取り組みました。

た。〈The Archive Club〉を提案したチームの岡崎在住のメンバーが実行にうつすため、TAC-MATEを独自に借り「DM710」としてコンビニ内ショップをオープンさせました。



インプット前半: ゲストによるトーク



インプット後半: ゲストとのワーク



アウトプット期間のようす



ウェブサイトでの提案公開



INCロゴ

2019年12月15日[日]

**野村由芽氏・竹中万季氏**

[She is/CINRA.NET]

オンラインマガジン「She is」の編集を手掛ける二人にとってのクリエイティブディレクションについて語られました。ワークでは、これまでに出されたアイデアに対する2人からのレビューやディスカッションがなされました。

2020年1月18日[土]

**山道拓人氏**

[株式会社ツバメアーキテクト代表取締役]

ツバメアーキテクトにおいて設計以外の事業をどのように提案し、プロジェクトをクリエイティブに進めていくのかがロジカルに語られました。ワークでは、これまでに出されたアイデアをプラスアップし、参加者によるプレゼンテーションがなされました。

## アウトプット

「インプット」を経てフェーズ2の1回目。決まったスケジュールではなく自由に話したりアイデアを出し合ったりする機会が欲しいという参加者からの意見を受け、プレゼンテーションに向けてのチームづくりとアイデアのプラスアップを実施。フェーズ2の2回目では、ゲストとして編集者多田智美氏にお越しいただき、アイデアのまとめ方を、プレゼンテーションと企画書のつくり方の違いを意識しながらレクチャーいただきました。フェーズ2の3回目はプレゼンテーションのリハーサル。レビューも含めて各チーム時間をかけながら提案内容を調整していくが、残念ながら結果的に3月20日のプレゼンテーションは開催不可。企画書、およびウェブサイトでの提案公開へと舵を切り、そのための詰めの作業を実施中。

成果として、「主役はまちで暮らす人。まちの魅力に出会えるカード」がキャッチコピーとなる〈QURUWA! アド街アップス〉、「文化体験蓄積型コンビニエンスストア」をうたう〈The Archive Club〉など7つのプロジェクトが提案されまし

## シンポジウム

# QURUWA 新章突入 あなたはどこで 何をする

毎年度実施している、QURUWAのまちづくりの恒例シンポジウムを2019年度も開催しました。同地区の整備が大詰めを迎え、QURUWAにおいてもまちの風景や過ごし方や人の流れが変わり、公民連携で進めるまちづくりの舞台も整って、民間ならではの視点、アイデアで魅力的な暮らしを描き、実現する新たな事業やプロジェクトを仕掛ける段階に突入することを受けて、これからQURUWAへの関わり方について掘り下げました。

日時:2020年2月1日[土]14:00~16:30

場所:岡崎市福祉会館6階ホール

参加者:226名(そのほか関係者15名、託児利用児3名)

## パネリスト

(乙川リバーフロント地区まちづくりデザインアドバイザー)

**藤村龍至** | Ryuuji Fujimura

コーディネーター/建築家/東京藝術大学美術学部建築科准教授/RFA主宰

**清水義次** | Yoshitsugu Shimizu

建築・都市・地域再生プロデューサー/アフタヌーンソサエティ代表/3331アーツ千代田代表

**西村浩** | Hiroshi Nishimura

建築家/クリエイティブディレクター/株式会社ワークヴィジョンズ代表取締役/オン・ザ・ルーフ株式会社代表取締役/株式会社リノベリングパートナー

**泉英明** | Hideaki Izumi

都市プランナー/有限会社ハートビートプラン代表取締役/北浜水辺協議会理事

**伊藤孝紀** | Takanori Itoh

建築家/名古屋工業大学大学院建築・デザイン分野准教授/タイプ:エービー主宰

## おとがわプロジェクトの5年間

2015 H27	2016 H28	2017 H29	2018 H30	2019 R1	2020 R2
1. ビジョンを策定	公民連携 まちづくり 基本計画 「QURUWA! WORKS」	籠田公園 仕組みづくり WS	籠田公園改修 北東街区 竣工	まちなか景観 ガイドライン エリアマネジメント方針検討	
2. 公共のプロジェクト	乙川リバーフロント地区 まちづくり 基本構想 まちづくり シンポジウム まちづくり ワークショップ 官民連携 調整会議発足 リノベーション スクール まちづくり 市民提案	中央緑道等 基本設計業務 指名型プロポ 社会実験 「おとがわ！ シダーランド」	簡易型プロ ト	4. 公民連携プロジェクト立ち上げ	5. 新しい日常=新章
3. 民間の小さなプロジェクト					

QURUWAのまちづくりの「必勝デザインプロセス」(藤村氏資料より抜粋)

藤村 | 乙川リバーフロント地区というのは、第二次世界大戦後の戦災復興事業で整備された地区の2回目の再整備にあたります。これまでのプロセスを整理すると、2015年からの最初の2年間はまちづくりの方向性を議論して大きな「ビジョンを策定」する期間、その後まず「公共の大きなプロジェクト」の発注が始まり、並行して籠田公園周辺でリノベーションまちづくりが進められ、並行して殿橋などで社会実験がおこなわれるなど「民間の小さなプロジェクト」が始まっています。それらの経験を活かして太陽の城跡地や、桜城橋の橋詰広場の「公民連携プロジェクト」が立ち上がってきました。今回の「新章突入」は、これらの積み重ねのうえでこれから始まるであろう「新しい日常」を迎えるということです。

他のまちでよくあるプロセスは、最初に合意形

成に失敗してビジョンがうまく策定できず、公共プロジェクトが縦割り行政の中でバラバラに発注され、民間事業者がついてこず、公民連携プロジェクトも立ち上がりず、その結果きれいでは使われない公共空間が整備されてしまうというものです。それを考えると岡崎でのこの6年間のプロセスは、とても理想的なプロセスだったと思います。

なぜそのようなプロセスが辿れたのかといえば、ビジョンを策定する段階でデザインシャレットやまちづくり市民提案などでしっかり啓発して、公共のプロジェクトを発注する段階で市役所の内部に「官民連携調整会議」や「デザイン調整会議」をつくって、乙川河川緑地の利活用社会実験や連尺通りの生活社会実験をして、それを踏まえて公民連携事業として太陽の城跡地や桜城橋や橋詰広場の事業者選定もお



左から、伊藤孝紀氏、泉英明氏、西村浩氏、清水義次氏、藤村龍至氏

こなう、というように、5年間の中で専門家の意見も活かしながら徐々にやるべきことを積み重ねることができたからだと思います。その結果、籠田公園や中央緑道沿いに先行しているように、公共投資を追いかけるようにして民間投資が誘発され、岡崎のまちなかに新しい日常風景が生まれ始めているのだと思います。

西村 | 私が関わる2017年ころには、岡崎のハード整備の形が見えてきていました。

これからQURUWAのQというこの大きな舞台に、マグネットのように市民活動が張り付いてこないと、ただきれいな公共空間ができた、ということになってしまったんです。

実はここからがすごく大事で、いかに多くの事業者、あるいは利用者がQの中に集まつくるか、ということにチャレンジしていかなければいけないと思っています。

僕の故郷は佐賀なんですが、佐賀で10年ぐらいた活動てきて、ようやく良い風景が生まれてきました。

河川と道路という公共空間があって、民地とこれらの公共空間の境界を敢えて曖昧にして、歩道や河川に人の活動がにじみ出でてくるっていう状態を日常的につくろうという活動をしているわけです。

まちなかにクリーク(JI)があって、乙川のように遊びたおすと徐々にその沿川の価値が上がっていくわけです。川で遊んで、川の魅力が上がっていくと、川に面した不動産の魅力が高まっていくんです。

やがて、その場所やエリアで何かをやりたい人が絶対に出てくる。だから先行してそうした動きを起こしていくエリアの空き地や建物を狙って利活用を誘導するということがすごく大事だと思っています。

事前にイメージを勝手に描いてくわけです。人の家であろうと関係なく「こうなつたらいいよね」というイメージを描いていきます。

そしてイメージを膨らませていくと、それだけでもエリアの価値が上がります。

次に道路です。

駐車場だらけの延長約200mのエリアで10年間やってきましたが、最初に空地に芝生をはってコンテナを置いて、子どもたちやお母さんたちが集まるといいな、というイメージで取り組みを始めたんです。そうすると、やっぱり子育て世代が集まってきて、平日の昼間にはほとんど人が歩いていなかった通りがすごく明るい雰囲気になってきました。その変化の兆しをいち早く感じた事業者が、ラーメン屋さんとスポーツバーを建てたんです。これがまたマグネットになって、通り沿いの空き地はどんどん原っぱにしていこう!といったプロジェクトが起こつたり、若い人が空き店舗に入ってお店をオープンしたりと連鎖的に動きが出てきました。

これらのポイントは、延長200mの道路沿いに様々なことが一気に展開はじめたことです。要は密度が大事です。Qの中を高密度で全部埋めようと思ったら、相当の事業者やプレイヤーが入ってくる必要がある。だから一度に全部のエリアを盛り上げようとすると、なかなか難しいけれど、それが200mぐらいの小さなエリアを例えれば数カ所、QURUWAの中で選んで、そこを集中的にやるしたら、5人ほどのプレイヤーが集まれば、その200mはQの中でいい感じに変わっていくと思います。

そして、そこに魅力を感じたプレーヤーたちがさらに「マグネット」されて、どんどん起業したり、活動を始めたりしていきます。その循環をどうつくるかが、これからQURUWAの勝負だと思います。

泉 | やっぱり今から大切なのはコンテンツを持っている人です。

コンテンツを持っている小さな事業者の方を巻き込むと、その後、その利用者、ユーザーが出てきます。



会場に設置した託児スペースのようす

ユーザーがパブリックスペースを面白い使い方をするとまったくまちのシーンが変わります。あとはコンテンツです。豊かな生活につながるようなコンテンツを持っている人がちゃんと事業としてそれを始めていくと大きいまちが変わります。

まさにそういうコンテンツを増やしていこうというのが、「おとがワ!ンダーランド」の取り組みです。小さな事業者がちょっとずつ集まって、ちょっとずついい投資をしたらエリアの価値がどんどん変わることを伝えたいです。

大阪の北浜という所で川沿いのビルの川に面した部分を活用する「北浜テラス」という取り組みをしていますが、元々は「使われてない河川空間をどうしよう」と妄想していました。

そして、オーナーに提案しに行きましたが、50軒のオーナーがいる中で、最初は3軒しか一緒にやろうという人はいませんでした。が、試しに1ヵ月限定でテラスをつくってレストランの運営をしてみたら非常によかったです。常設しようということになりました。

このポイントは、最初3軒から小さく始めて、徐々にいい暮らしのシーンを広げていくことと、社会実験としてやることで、ちゃんと事業性をもって運営できるということをみんなに証明していくこと。最初3軒から始まって15軒にまでなっています。北浜水辺協議会という協議会をつくって、そこが全てのデザインコントロールをして、継続的な組織も今立ち上がっています。最初は小さな動きでしたが、それが集まるとエリアが大きく変わっていくということを実感しています。

伊藤 | 私は今日、「観光」と「産業」という2つのキーワードに着目しながら、官民連携のハード整備につながっていく話をします。

名古屋市の例ではありますが、名駅地区と栄地区を分けて考えるのではなく、両方の地区を繋げながら、既存の製造業だけではなく、何かプラスαになるような新たな産業を生み

出せないだろうか、またそれに準ずるような人材を誘致できないだろうか、そんな取り組みを2015年から始めています。

最初はシンポジウムの開催や、海外の視察をおこないながら進めていました。

2、3年して、実際にリーディングプロジェクトとして、名古屋の都心部に数多くある立体駐車場のひとつをリノベーションすることから始めました。駐車場がたくさんあると、やっぱりまちを歩いていて、あまり楽しくないです。

立体駐車場の一部分が美容院やカフェなどお店へ変わってくると、まちの中を歩きながら、楽しく感じられると思います。

そこで、クリエイティブサロンと称して、クリエイティブに活躍する方々と交流する取り組みをおこないました。

何をしたらクリエイティブ人材が集まつくるのかが分からなかったので、先ず20代から30代前半で起業をしている方々をお招きました。愛知で起業した方の話で驚いたのは、20代なのに起業する仲間がもの凄く多い。

自動車産業だけじゃなくて、アプリ等の開発をしながら活躍している人材が、東京に次いでこの愛知県に多いことを教えてもらいました。では、このような人材の心に触れるようなコンテンツとは何なのか。何か観光や産業と結び付くような仕掛けを、小さなことからでも検討してみるのは、ひとつあるかもしれません。

一方、人口15万三重県桑名市の事例として、2014年に市長がブランド都市化を宣言したことを見きっかけに、まち全体のプランディングに取り組んでいます。

まず、ブランドコンセプトをつくり、イベントから公共施設にも展開することを目指しました。一番のキーラインは「本物博覧会」といって、地域の本物力を集積することに努めました。地域の人たちが伝統産業や文化、芸能など情報を発信しながら、互いに交流できる場をつくろうと思いました。

市民が自分のやりたいことに取り組むことができ、スタートアップとして起業するなど多様なチャレンジを支援する仕組みをつくることで、結果的には産業や観光と結び付いてくるような、そんな仕掛けが岡崎にもできるといいと思います。

清水 | QURUWAの中で、大きな民間投資をしようとする方々が、いよいよ登場する段階に近付いたという感じがします。

QURUWAの公共空間整備によってもたらさ



ポートランドのSouth Park

れる周辺への波及効果がすごく大きくなると思います。

ゴン州ポートランドの話をしたいと思います。ポートランドは、まちの暮らしを楽しむことが観光の主目的になっています。岡崎では岡崎城や歴史性の高い遺産もたくさんありますが、それを捨ててと言っている訳ではありません。

QURUWAを中心に新しい都市観光を考える、この姿勢がこれからは大事だと思います。ポートランドでの都市の暮らし方も岡崎を目指してほしい姿です。ウラメット川の河畔の公園では健康な生活を送ることを目的とした日常的な使い方がされています。お子さんとお母さんの姿也非常に多いです。「20-Minute Neighborhoods(20分圏内バーフッド)」を掲げ、住居とまちの中心部にある職場まで20分で行けるまちとしています。

次に、ポートランドには中央緑道にちょうどそっくりの緑道公園South Parkという細長い公園があります。これが特定の曜日には、たくさんの人出になります。ここではオーガニックマーケットが毎週開催され(上画像)。市内中心部の5カ所くらいで毎週開かれています。QURUWAの中で曜日毎に場所を変え、道路や公園や河川敷が使われ、周辺のおいしいオーガニックな野菜等がたくさん提供されるマーケットが開かれているのもいいかもしれません。

South Parkのすぐ脇のスペースでは、普通の街道を閉鎖し楽団による音楽演奏が路上でおこなわれ、子供たちがたくさん集まっています。りぶらの周辺あたりで日常的にこんなことが起こるといいなと思います。

それからQURUWA内の交通も重要なになってきました。例えば、ポートランドでは多様な交通手段があります。中心部エリアを無料で乗れるトラム(路面電車)が走り、バスの本数也非常に多いです。自転車も盛んで、警察官まで自転車で警備をおこなっています。

(以上、発言を抜粋)



会場のようす

# SYMPOSIUM

OTOGAWA GRAND DESIGN Log

## 関連プロジェクト

# QURUWA 講演会& 意見交換会 「そとつながる 図書館」

日時：2020年2月25日[火]14:30-16:30  
場所：岡崎市図書館交流プラザ・りぶら  
会議室103

りぶら内外における活動を促進するため、QURUWA戦略の総合プロデュースを務める清水義次氏が携わり、たびたび事例にも上げられる岩手県のオガール紫波における紫波町図書館の主任司書である手塚美希氏をゲストに招き、QURUWA講演会＆意見交換会「そとつながる図書館」をりぶら内の関係者を対象に開催しました。

最初に清水氏より紫波町図書館と手塚氏の紹介がなされます。オガールと周囲のまちに繋がりが生まれ、高齢化率が下がり、過疎のまちで待機児童が発生するという「事件」が起きているそう。



手塚さんによる公演のようす



次いで手塚氏からは「知りたい」「学びたい」「遊びたい」を支援する図書館という運営方針と、官、民、子、団体、地域すべてが垣根なくつながることができるのが図書館という考え方方が紹介されます。運営する中で気づいたことの一例として、「来館してもらうだけでなく、こちらが出向くサービスを考えることが重要である」と語ります。産地直売所、JAいわて、農林課、農林公社と連携して企画展示をおこなったり、マルシェと連携して野菜の販売とレシピ本とセットにしたり、多様な活動を図書館をきっかけにして実施されています。もちろん農業従事者との連携のみならず、出版社、美術館、そして醸造所などの地元民間事業者などとの手を組みながら、図書館からまちを変えていく取り組みをおこなっています。

質疑応答や意見交換では、りぶら側司書の一部からはこれまでにない図書館像とのギャップにやや戸惑うような質問がなされる場面も

あつたが、手塚さんはひとつひとつ丁寧に答え、紫波においてもそうした声に実直に向き合ってきた横顔を見せるようでもありました。「ヒトとヒトとのつながりはAIではできないこと。図書館こそ人と人のつながりに貢献してほしい。」という指摘がなされておわりました。

この講演会がきっかけとなり、司書有志の企業や行政との連携強化、企画展示の強化、屋外利用に対するモチベーションが高まり、それを受けて岡崎市市民協働推進課にも、りぶらの課題設定、ニーズを引き出し活動の軸を定め、それに寄り添う形で支援者や協力者を募っていくという協力関係が生まれています。次年度に向け、りぶら内部(市民協働推進課、中央図書館)の当事者性を引き出し、活動の軸と担い手を生み出しながら、そこに外部の担い手をマッチングしたり、既存の利用条件を見直していくという組み立てでタスクフォースが進んでいきます。

## 関連プロジェクト

# QURUWA菜園

時期：2019年9月5日[木]-2020年3月末  
実施：14回  
参加人数：238名(平均17名/回)  
従事人数：116名(平均8.3人/回)  
総来場者数：446人(平均31.8人/回)  
\*参加者、従事者、見学者、関係者の合計

岡崎まち育てセンター・りた(都市再生推進法人)、おかげ農遊会、市民有志からなる、「QURUWA菜園inりぶら実行委員会」によって、ストリート広場南西の砂地部分でおこなわれた、農作物栽培用のプランタと青空教室用のテーブル・ベンチを仮設設置した参加型農園の取り組みです。

「農」というテーマでQURUWAにおける「暮らしの質の向上」を体現するプロジェクトとしてプロモーションおよび協働促進をおこなった結果、①まちづくり・商店街組織(まちづくり岡崎、東康生レディース会)、②NPO(コネクトスネット)、③民間事業者(Snowpeak Business Solutions)、④教育機関(愛知学泉大学)とのコンテンツ連携が実現しました。



# 2019年度デザイン会議

QURUWAプロジェクトへの提案・助言・評価とともに、公民連携と都市デザインのクオリティコントロールをおこなうため、まちづくり専門家と主要まちづくり4部局等から構成された戦略会議体

### ●メンバー

[乙川リバーフロント地区まちづくり  
デザイナードバイザー]  
清水義次 | 株式会社アフタヌーンソサエティ代表取締役  
藤村龍至 | 東京藝術大学准教授  
西村浩 | 株式会社ワークヴィジョンズ代表取締役  
泉英明 | 有限会社ハートビートプラン代表取締役  
伊藤孝紀 | 名古屋工業大学大学院准教授

### [民間事業者]

[岡崎市職員]

### ●第1回

日時：2019年9月25日[水]14:00-16:00  
場所：岡崎市役所分館2階 202会議室

#### 内容：

- ・民間事業者のクオリティコントロールについて  
民間投資による建築物のQURUWAエリアに対する影響(低層階の重要性)と建築物のクオリティコントロールをするための制度や体制について議論しました。

### ●QURUWAの10年後を見据えた

次の5年のイメージと求められるもの  
将来のQURUWAに求められるイメージと、それを実現させるための現状のテーマや課題の整理、周辺住民への情報発信について議論しました。

### ●康生通りと連尺通りの社会実験について

連尺通り……道路活用に必要な要素(情報、コンテンツ、移動手段)について議論しました。  
康生通り……社会実験の検証項目と企画内容について議論しました。

### ●第2回

日時：2019年11月13日[水]13:30-15:30  
場所：岡崎市役所西庁舎7階 701会議室

#### 内容：

- ・リノベーションまちづくりについて  
リニューアルされた籠田公園周辺の物件ツアーや康生通り、連尺通りとの連携、空き家と道路空間との一体的な活用検討について提案されました。

- ・康生通りと連尺通りの社会実験を踏まえた籠田公園とりぶら間の回遊性の向上とエリアマネジメントについて  
都市再生推進法人から康生通り及び連尺通りの社会実験の報告が行われ、アドバイザーからは、通りと人流分析カメラとの連携、中央緑道のストリートデザインの必要性、通りのルールや使われ方を示し、将来のまちの変化をコントロールすることの必要性について提案がありました。

### ●情報発信について

QURUWAという価値が共有できていないという情報発信の課題に対し、コンセプトやキャッチコピーの必要性と岡崎市のホームページから独立したWebサイトの必要性が提案されました。

### ●第3回

日時：2020年1月21日[火]14:00-16:00  
場所：岡崎市役所西庁舎7階 701会議室

#### 内容：

- ・「QURUWAとわたし」の「関係性のテーマ」について  
情報発信Webサイト構築・運用のプロポーザルの提案について、管理運営方法や具体的なターゲット像を議論しました。

### ●QURUWAの交通計画について

QURUWAのまちづくりと連携した交通計画の必要性について議論しました。

### ●NTT西日本ビル1階の活用について

敷地単体ではなく、クオリティコントロールされた中央緑道との一体的な活用の必要性が指摘されました。

### ●その他

QURUWAエリアでのスマートウェルネスシティの展開について議論しました。

# PROJECT TIMELINE

## プロジェクトのタイムライン



## BACK NUMBER

### Vol.1

キックオффフォーラム  
シンポジウム  
デザインシャレット  
中間提言書  
[収録]



### Vol.2

キックオффフォーラム  
シンポジウム  
デザインシャレット  
中間提言書  
[収録]



### Vol.3

おとがわプロジェクトの  
全体像  
グランドデザインフォーラム  
市民インタビュー  
[収録]



### Vol.4

おとがわプロジェクトの全体像 | リノ  
ベーションまちづくり | かわまちづくり |  
基本設計ワークショップ | シンポジウム |  
まちのトレジャーハンティング | フォーラ  
ム | パブリックミーティング | 3つの会議  
[収録]



### Vol.5

[特集]  
QURUWA 戦略  
乙川リバーフロント地区的  
まちづくり3年目の取り組み  
[収録]



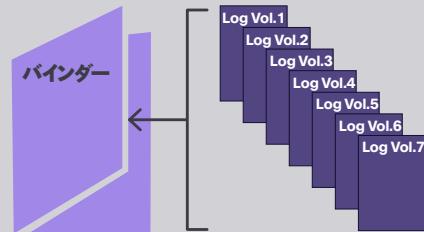
### Vol.6

[特集]  
暮らしを豊かにするまちの使い方とは  
乙川リバーフロント地区的  
まちづくり4年目の取り組み  
[収録]



## 『OTOGAWA GRAND DESIGN Log』

本冊子は、配布するバインダーに挟み、  
各号をまとめて保管下さい。



発行元 岡崎市

発行日 2021年2月

企画・編集 株式会社都市機能計画室

デザイン 刈谷悠三+角田奈央+平川響子/neucitora

### 問い合わせ先:

**岡崎市都市施設課 QURUWA戦略係**

tel: 0564-23-7421

mail: quruwa@city.okazaki.lg.jp

web: <https://quruwa.jp>